

在校生のみなさんへ

2021年度『学修時間・教育の成果等に関する調査』の結果について

「東京経済大学 IR 推進委員会」は、教員と学生関係部署の職員から構成され、大学内のさまざまな情報を収集・分析し、その結果を教育・研究、学生支援等に活用する IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を行っています。

そのひとつとして、2016 年度より 2019 年度まで毎年度第 1 学期終了時に、全学部生を対象とした『学修時間・教育の成果等に関する調査』を実施してきました。しかし、2020 年度は新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策のための遠隔授業が始まり、教育環境・学修環境が激変したため、「2020 年度調査」は断念し、さらに今年度も同様な状況が続いていることから、「コロナ禍による遠隔授業のもとでの新たな教育環境における学修状況把握」にフォーカスして、「2021 年度調査」を実施いたしました。このたび、調査結果がまとまりましたので、コロナ以前の「2019年度調査」結果とも比較し、その概要をご報告いたします。

学生のみなさんには学期末の繁忙期にもかかわらず、回答にご協力をいただき、大変感謝しております。

本学の「全学のディプロマ・ポリシー(全学 DP)」に定められた学修目標の到達度について、各自が自己評価の参考にしてください。自由記述項目で寄せられたみなさんの声もあわせて、今後の教学改革や学生支援に活かしていきます。ありがとうございました。

1、調査の実施概要

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2021 年度
調査期間	2016.7.11～ 2016.8.6	2017.7.18～ 2017.8.13	2018.7.2～ 2018.7.31	2019.7.1～ 2019.7.31	2021.07.16～ 2021.08.16
全体回答者数 (回答率)	1,263名 (19.2%)	871名 (12.9%)	890名 (13.3%)	701名 (10.5%)	1,109 名 (16.9%)
1 年生回答率	31.9%	20.9%	27.9%	23.2%	26.9%
2 年生回答率	23.4%	14.5%	10.4%	10.3%	23.3%
3 年生回答率	14.3%	12.2%	10.4%	7.5%	12.1%
4 年生回答率	9.8%	5.9%	5.4%	3.0%	7.4%
留年生回答率	3.5%	1.6%	2.6%	1.3%	2.3%
E 学部回答率	18.1%	11.9%	10.7%	8.9%	16.3%
B 学部回答率	23.4%	15.4%	17.6%	12.8%	18.6%
C 学部回答率	16.6%	13.2%	11.7%	9.1%	12.6%
L 学部回答率	15.0%	9.6%	10.7%	9.6%	18.6%
*回答率の分母は、それぞれのグループの2021年5月1日現在の在籍者数					
質問項目	①最近1週間における平均的な時間の使い方(学修時間の把握) ●出席授業科目数、●授業時間以外の授業に関する予習・復習・課題学習時間、 ●授業とは直接関係のない個人的興味による自主的学習時間、●資格取得受験勉強時間、●アルバイト時間、 ●サークル活動時間、●社会活動(ボランティア等)時間、●インターンシップ・就職活動時間 ②実際に受講し、その結果、実力がついたと思う科目群 ③学習成果・到達度自己評価(全学のディプロマ・ポリシーと具体的な10の力の修得度) ④学習支援施設の利用状況(図書館・学習センター・グローバルラウンジ・教職ラウンジ・地域連携センター等)				
	⑤授業に取り組む姿勢、				<新規項目>
	⑥卒業後の活躍の場について	⑥1年次ゼミの学修成果について			⑤遠隔授業を受講したときのデバイスの種類 ⑥遠隔授業で良かったこと/困ったこと ⑦遠隔授業での受講でも十分学習効果のあった科目群 ⑧今後の感染症のリスクが継続時/終息時の遠隔授業実施の希望
回答の傾向	経年変化を見るため毎年同様の調査内容であったこと、2017年度以降、同時期に各授業科目の「授業アンケート」が実施されたこともあり、アンケート疲れか年々回答率が低下していました。回答者は1年生が多く、学部間のアンバランスもありましたが、遠隔授業をテーマにリニューアルしたことにより、全体の関心も高まり、特に入学以来ずっと遠隔授業中心であった2年生の回答が大幅に増えました。				

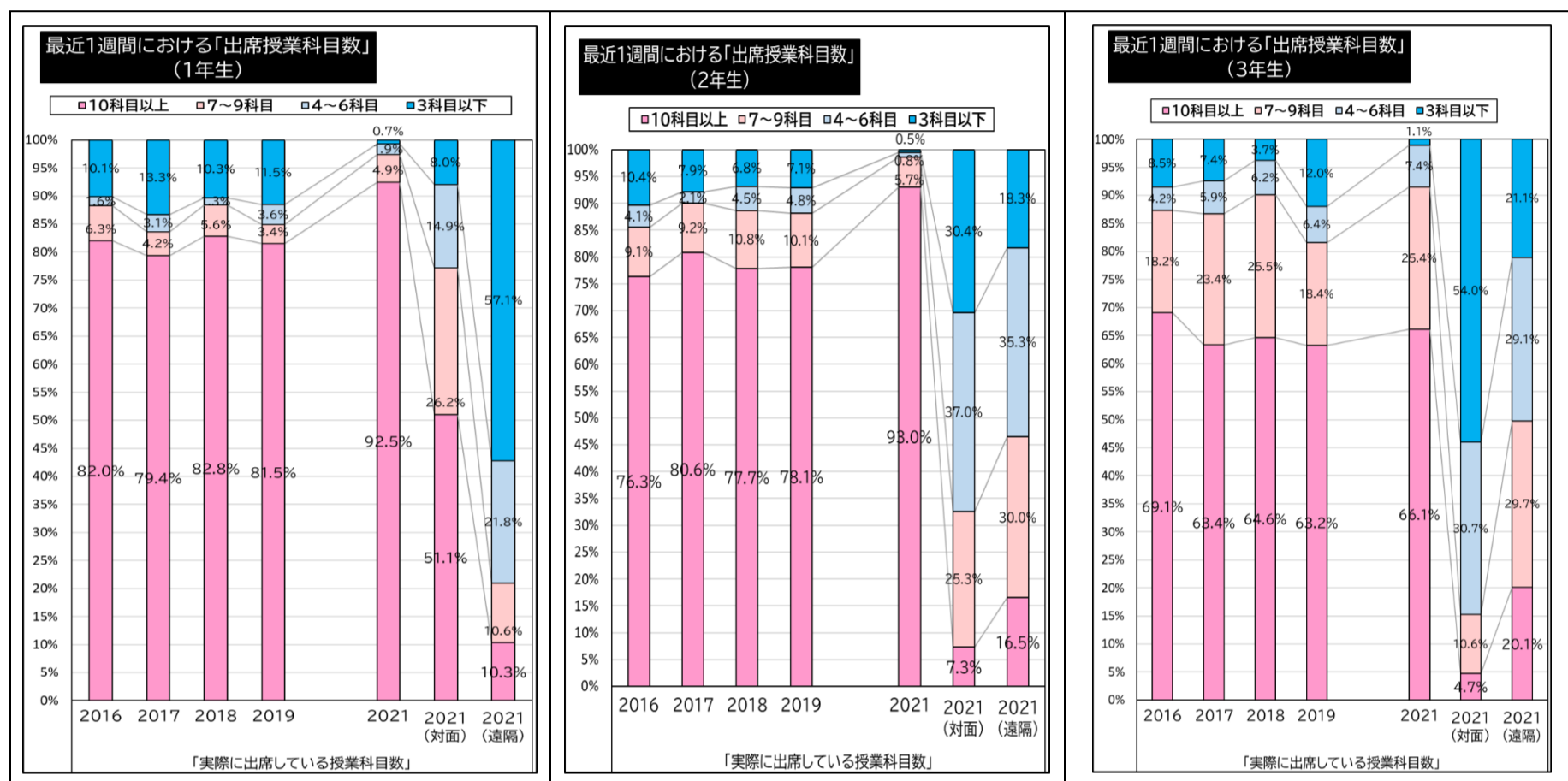
2. 調査結果について

1) 最近1週間の平均的な時間の使い方

2019年度までは、ほぼ履修登録どおりに出席している学生は「70%から80%程度」で、約10%程度の学生は1年生から厳しい状況にあり、退学者調査とも連動していましたが、コロナ禍で遠隔授業が2年度目となった2021年度は、「出席授業科目数」が各学年ともあきらかに増えました。さらに、「授業受講時間以外の授業に関する学習時間」も激増しています。これは、遠隔授業により録画等で復習がしやすくなったこと、各授業から課される多くの課題提出のためだと思われます。しかし、「授業と関係のない個人的興味による自主的な学習時間」も増えています。一方、「資格取得のための学習時間」は1年生を除きあまり変わらず、「アルバイト時間」や「サークル活動時間」は社会的な制約ではっきり減少しました。時間管理力の違いが時間の有効活用の差になっているようです。

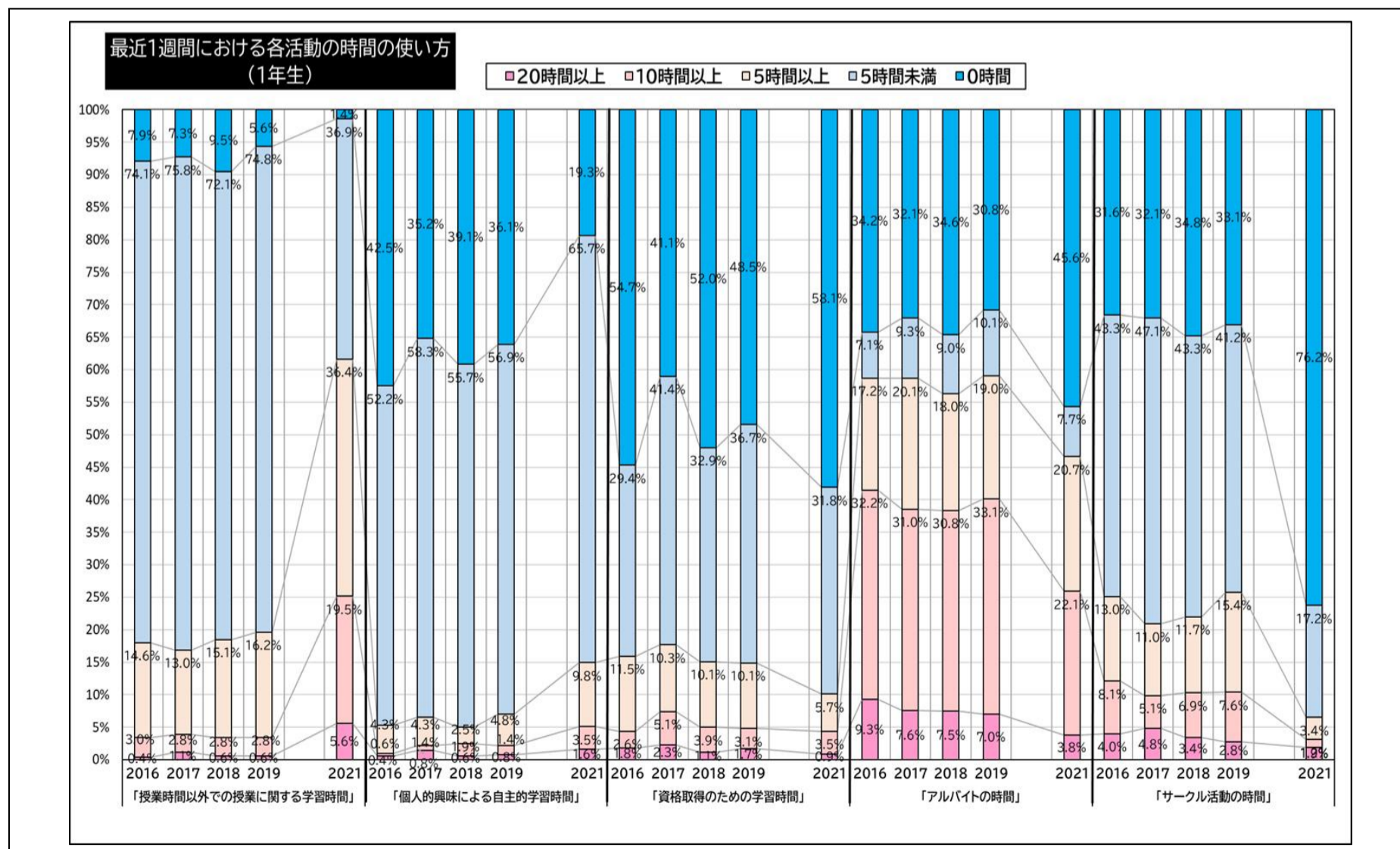
(1) 最近1週間の出席授業科目数

* 最近1週間とは対面授業再開期間(2021.7.5~2021.7.11)



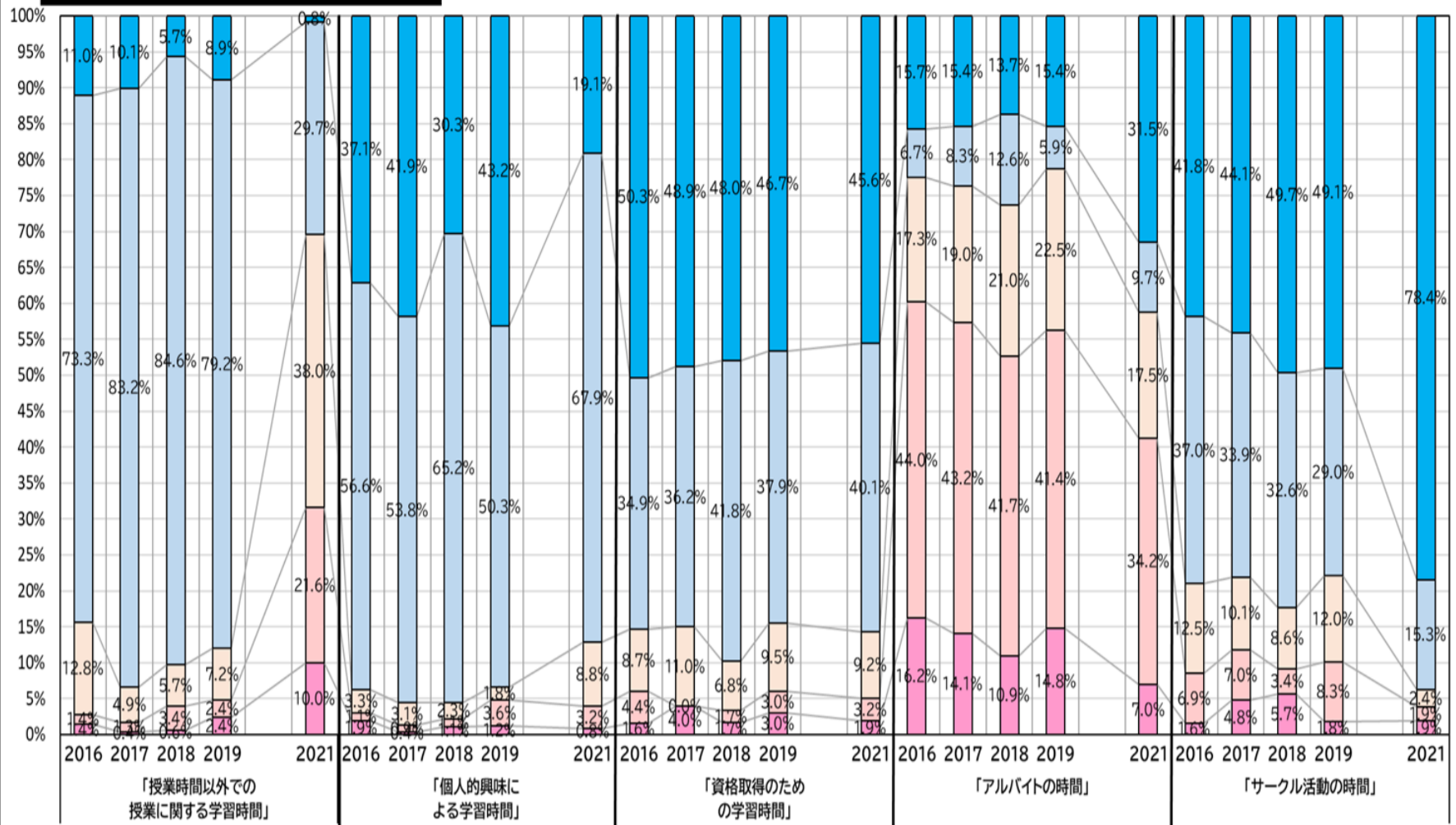
(2) 最近1週間の各活動時間

* 最近1週間とは対面授業再開期間(2021.7.5~2021.7.11)



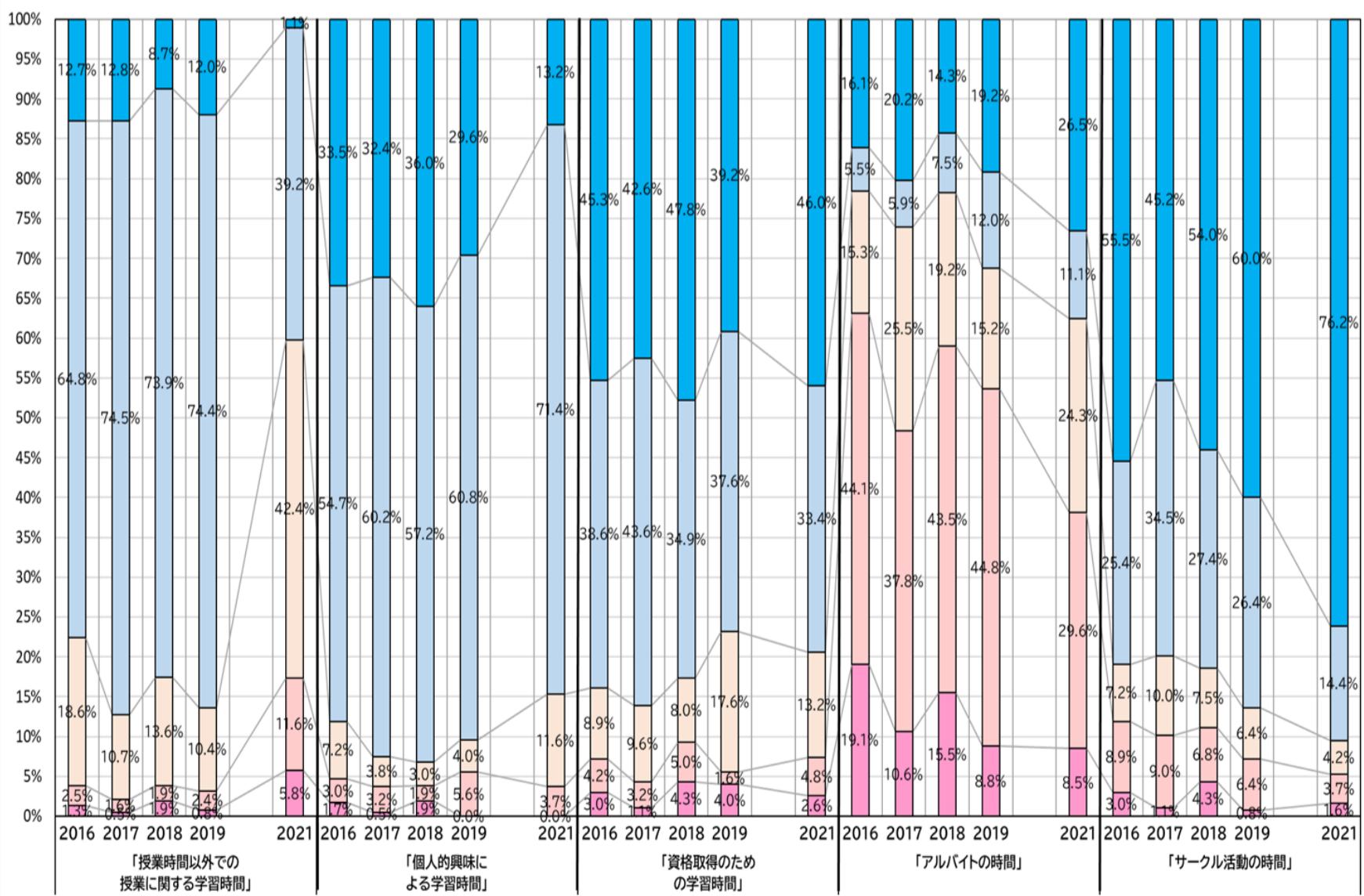
最近1週間における各活動の時間の使い方
(2年生)

■20時間以上 □10時間以上 □5時間以上 □5時間未満 ■0時間



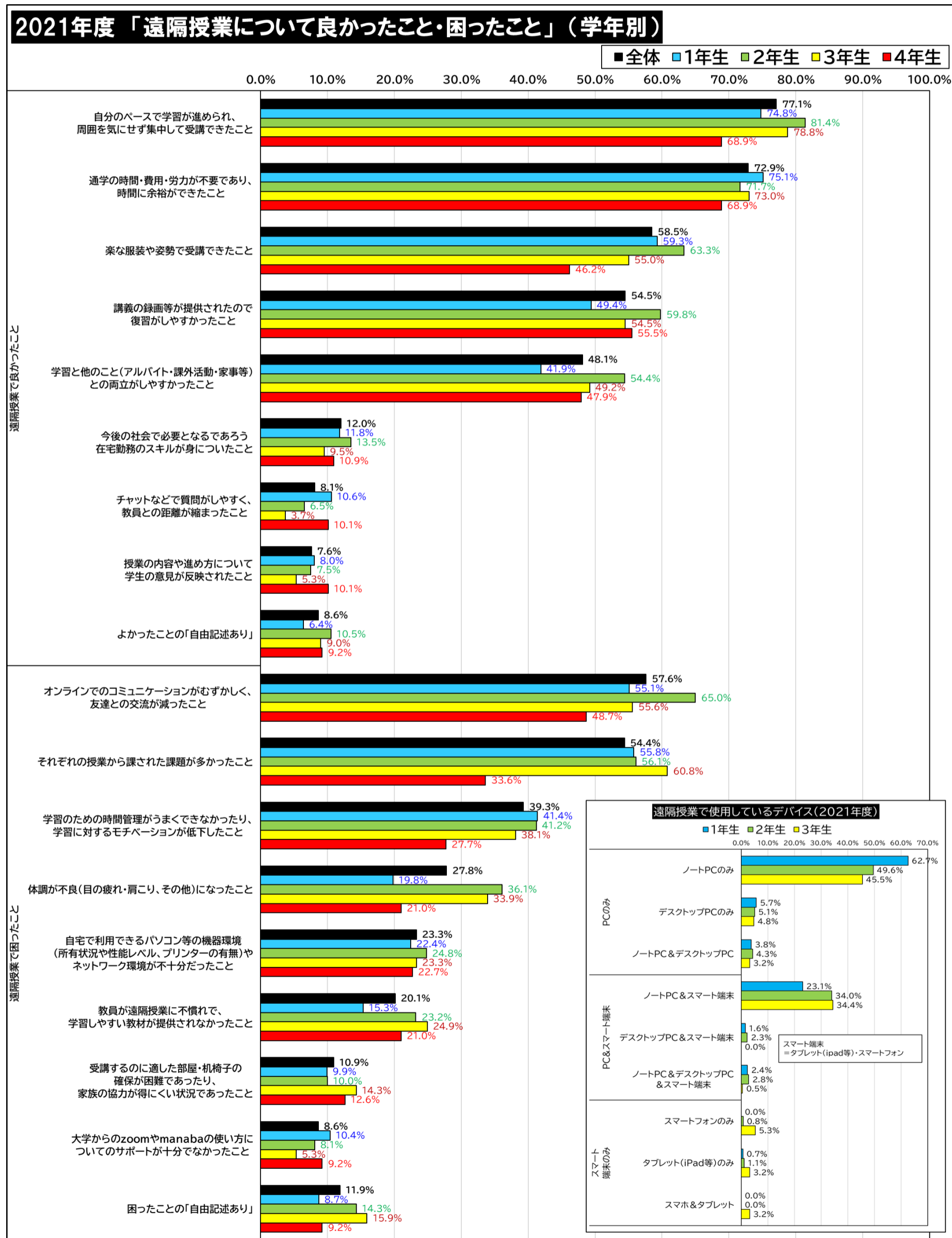
最近1週間における各活動の時間の使い方
(3年生)

■20時間以上 □10時間以上 □5時間以上 □5時間未満 ■0時間



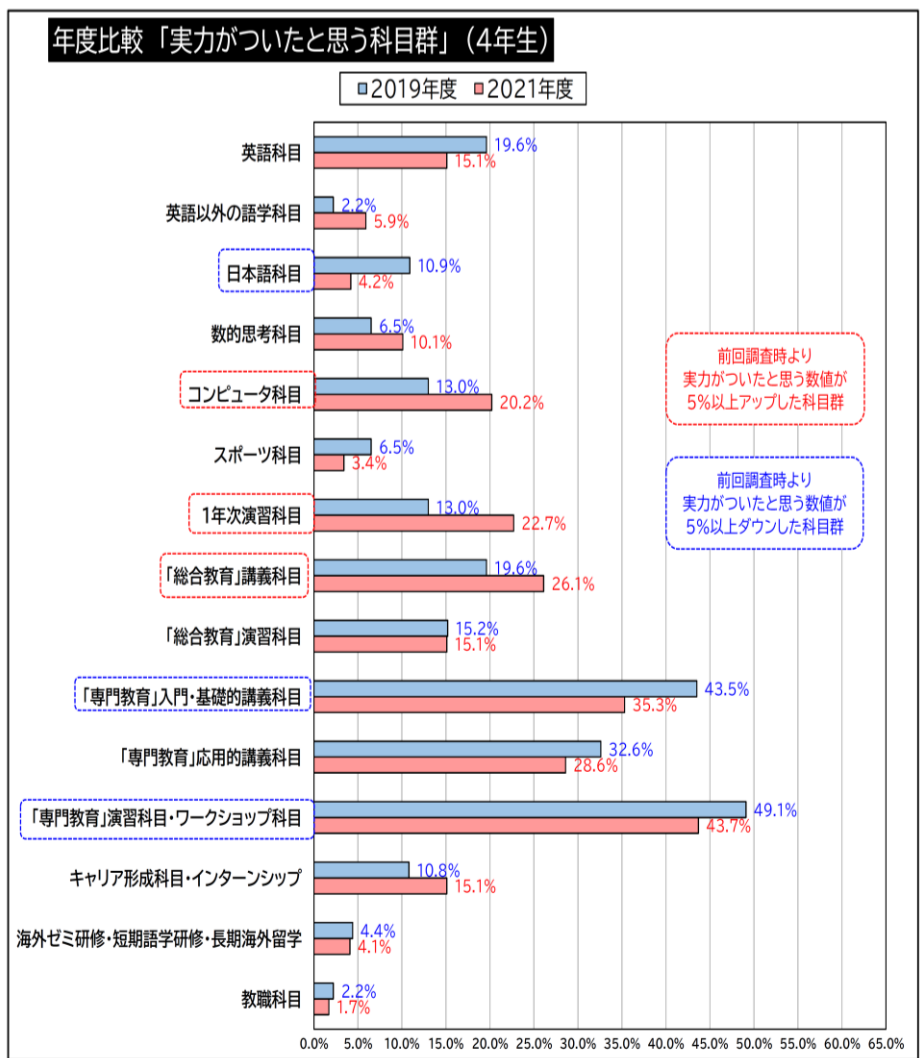
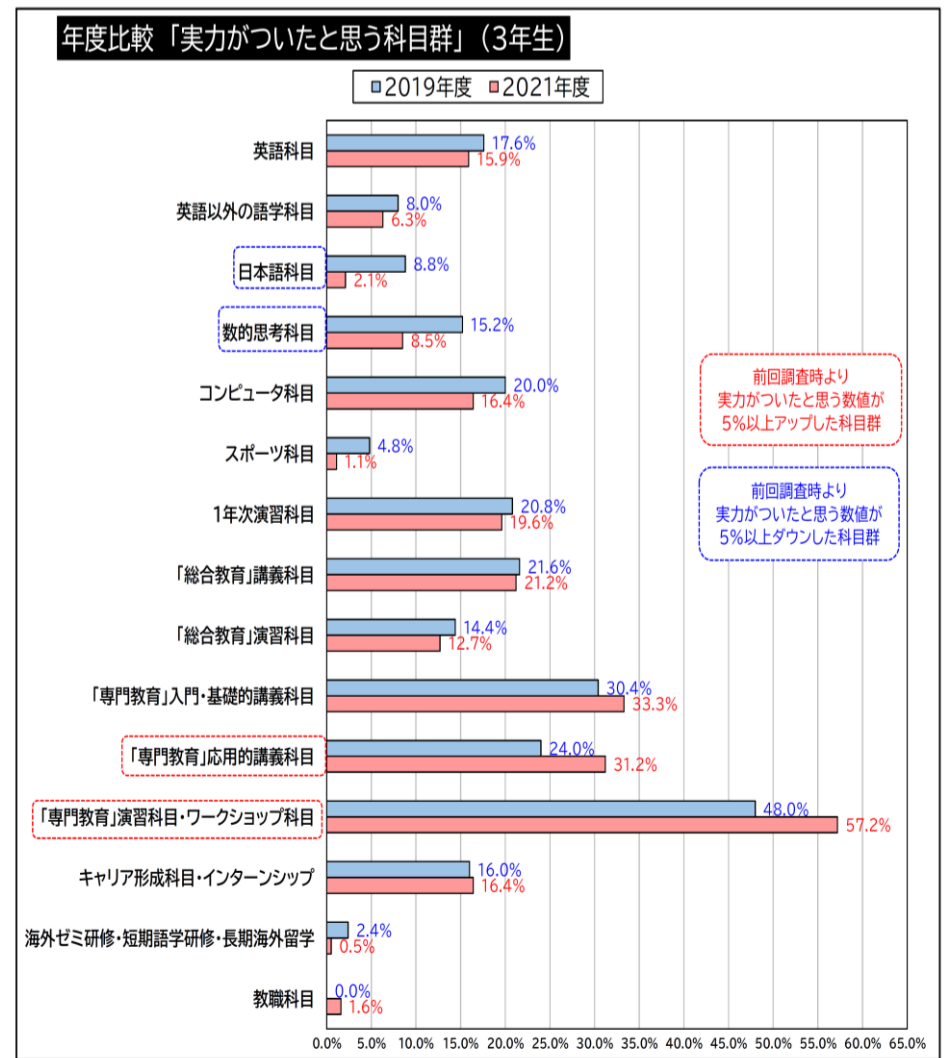
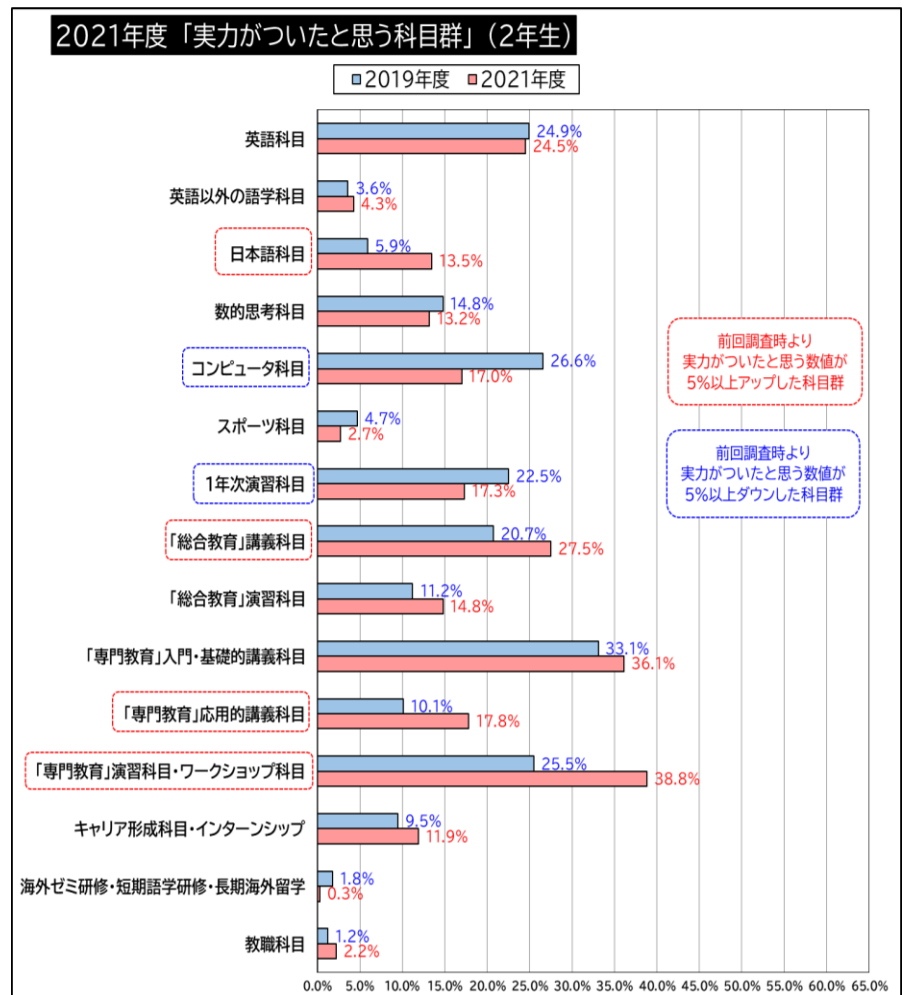
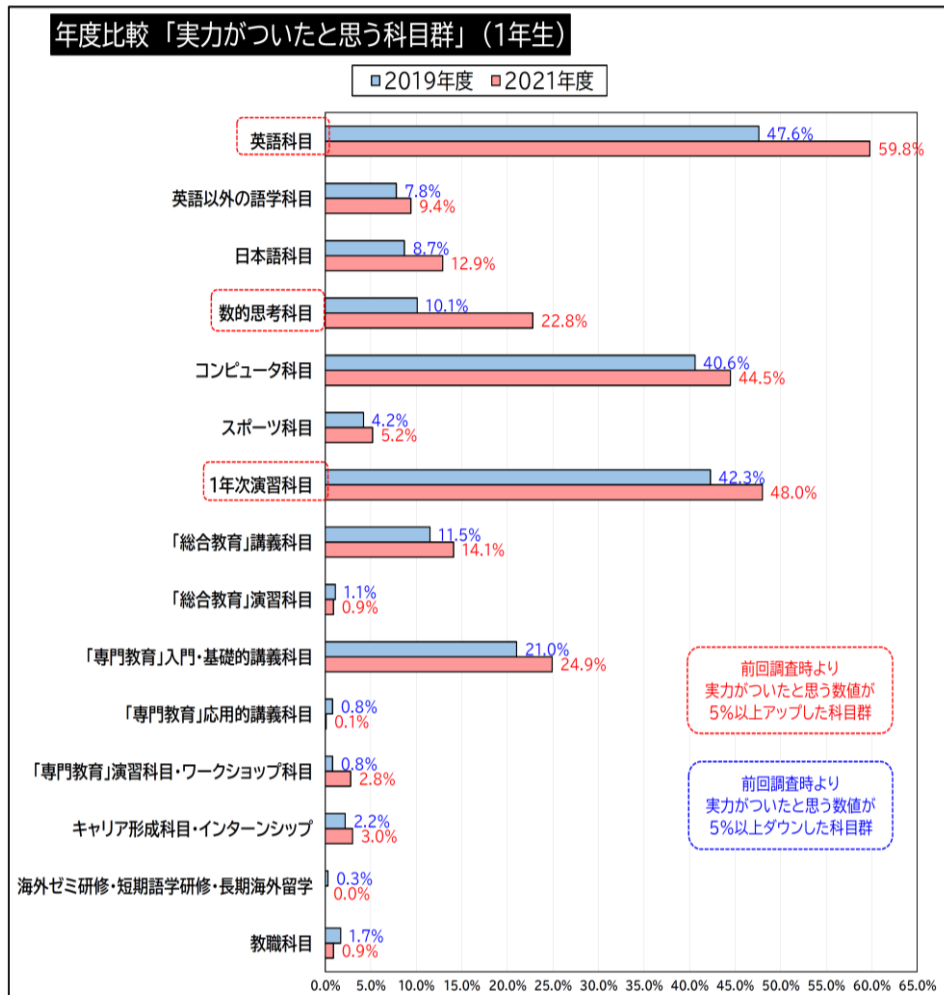
2)遠隔授業について、「良かったこと」「困ったこと」。

自宅での遠隔授業が長期化し、「自分のペースで集中して学習できている学生は7割」、反対に「学習のモチベーションが下がってしまった学生が3割」と時間管理・自己管理能力が明暗を分けています。遠隔授業実施方法については、それぞれの科目で最適な形態が求められており、Wi-Fi 環境の不調による出席管理や試験受験への影響も指摘され、教員との円滑なコミュニケーションがさらに必要なようです。「レポート提出が増えたこと」は、深く学習できていいという学生がいるものの、多くは十分対応できていないようです。「友人とのコミュニケーション激減」が最大のストレスで、肉体的・精神的体調不良を3割の学生が訴えているのも見過ごせません。

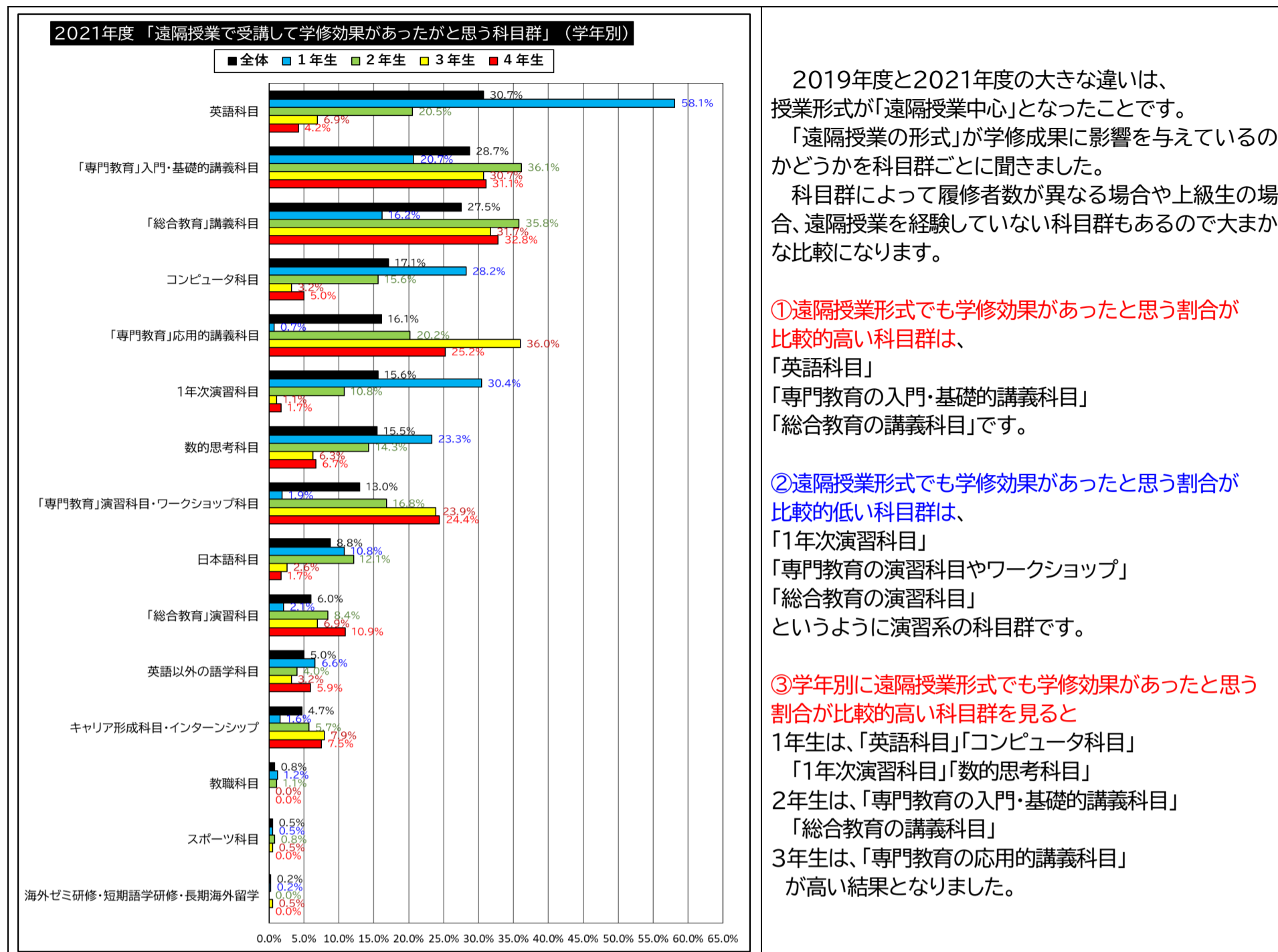


3)「本学の授業で受講し、その結果、実力が上がったと思う科目群(2019年度と2021年度の比較)」

- ①1年生は、「英語科目」「コンピュータ科目」「1年次ゼミ」が高い自信となっています。一方、「総合教育講義科目」、「専門教育入門・基礎的講義科目」ではあまり自信がついていません。2019年度との比較では、「英語科目」が特に伸びました。
- ②2年生は「専門教育入門・基礎的講義科目」と「専門教育演習科目・ワークショップ」で力が上がったと自覚しています。2019年度との比較では、特に「専門教育演習科目・ワークショップ」がアップし、コンピュータ科目でダウンしました。
- ③3年生は「専門教育入門・基礎的講義科目」「専門教育応用的講義科目」「専門教育演習科目・ワークショップ」が力のついた科目群となっています。2019年度との比較では、「専門教育演習科目・ワークショップ」が特に伸びています。
- ④4年生は「専門教育入門・基礎的講義科目」「専門教育演習科目・ワークショップ」に自信を持っています。2019年度との比較では、なぜか「1年次演習科目」がアップしています。下級生は現在履修している授業科目を中心に考えると思いますが、4年生は4年間を総括した回答をしているのかも知れません。

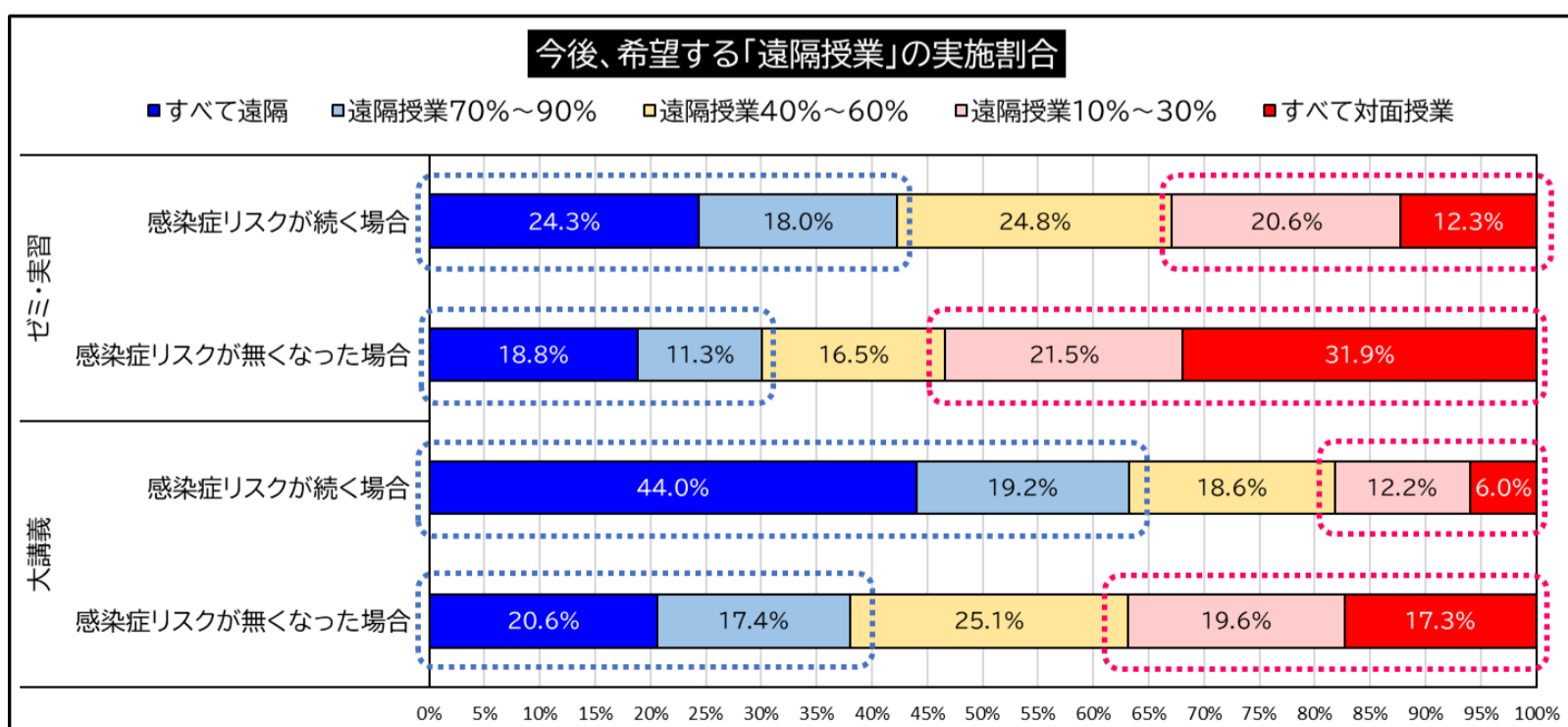


4)「遠隔授業で受講しても十分学習効果があったと思う科目群(2021年度)」



5)今後の遠隔授業実施希望

- ①「ゼミ・実習」は他の設問でも、「対面授業」の必要性が回答されていましたが、リスクが続いても「対面」中心を希望する学生は30%以上います。リスクが解消すれば、「対面」中心が多数派となります。
- ②「大規模講義」の場合は、リスクが継続した場合、「遠隔授業」の継続が多数派です。しかし、リスクが無くなった場合でも「遠隔」と「対面」は半々で拮抗しています。遠隔授業の経験が新たな学修スタイルを求めているのかも知れません。



6)学修成果・到達度自己評価

「全学のディプロマ・ポリシーの理解度とその4項目の修得度」に加えて、IR 推進委員会では、「具体的な10項目の汎用的な能力」を設定して、「学生自身の到達度評価」を継続して調査してきました。みなさん一人ひとりが自らの学びの成果(学修成果)として身につけた資質や能力を自己評価し、学修目標の達成状況を可視化されたエビデンスとともに自ら説明できることが求められています。

授業科目成績のGPAを参考に、全学DP5項目と10の能力をあわせた15項目について、「よく身についた=3点」、「ある程度身についた=2点」、「あまり身につけていない=1点」、「ほとんど身につけていない=0点」として数値化しました。

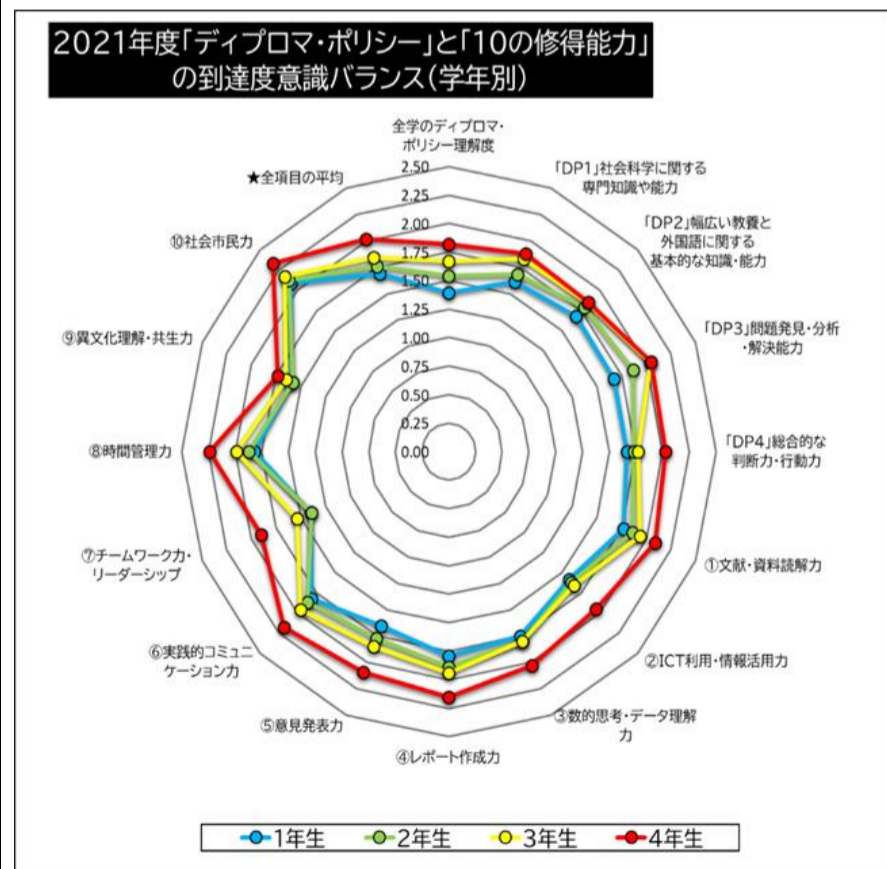
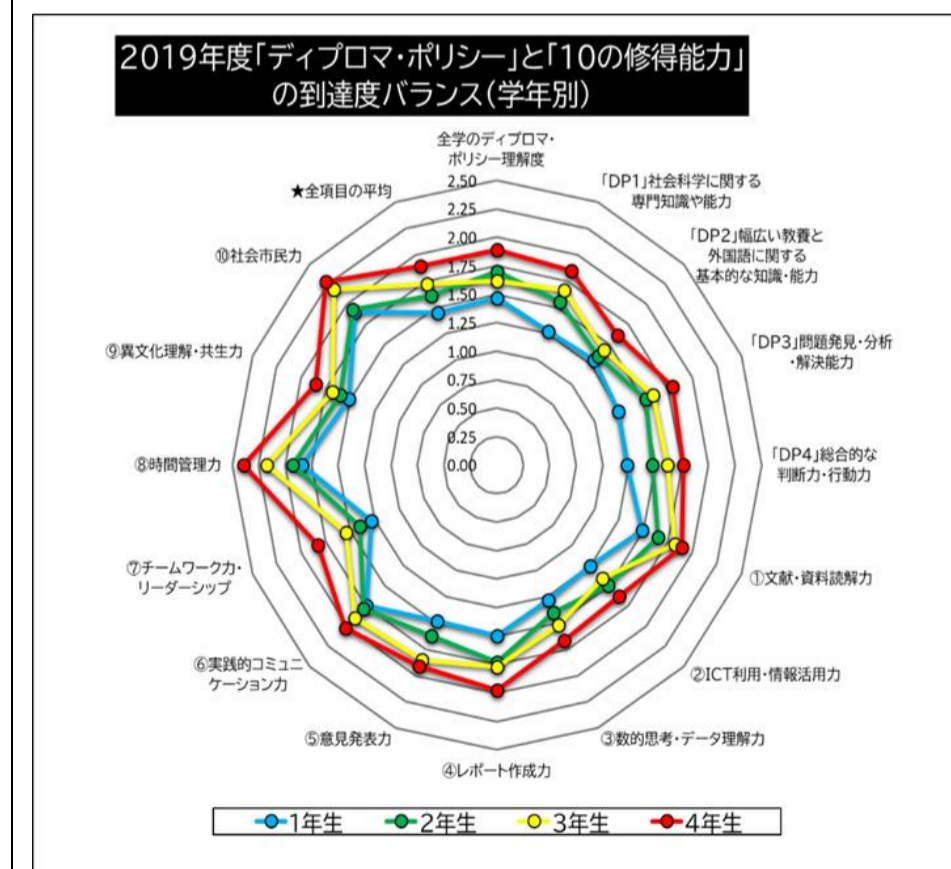
その結果、高いのは「実践的コミュニケーション力」「時間管理能力」「社会市民力」、低いのは「ICT利用・情報活用力」「チームワーク力・リーダーシップ」「異文化理解力」という傾向が毎年度ずっと続いています。本学学生の長所でもあり、短所でもある「おとなしくてまじめ」「みんなと仲良く」がよく表れていますが、一歩踏み出す「進一層」が必要なようです。

2021年度調査では、ほとんどの項目において自己評価が高まっていますが、「全学DP5項目」は今回、設問をわかりやすく表現し直したことの影響があるかもしれません。また、2019年度より「全学DPの理解度」と「時間管理能力」が下がりましたが、これはみなさんの遠隔授業への対応が反映しているのかもしれません。

学部別では、経済学部と経営学部は全体平均と同様な傾向を示すバランス型ですが、「数的思考・データ理解力」が上位に入ってきます。コミュニケーション学部は「実践的コミュニケーション力」「異文化理解・共生力」「意見発表力」が高く、現代法学部は「社会市民力」「文献・資料読解力」「DP3問題発見・分析力」が高いという特色がでています。

	身についたと思う資質・能力	2019年度 全体平均値	2021年度 全体平均値	増減
全学DP	「全学DP」全体の理解度	1.58	1.54	-0.04
	DP1 社会科学に関する専門知識・能力	1.45	1.70	+0.25
	DP2 幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力	1.36	1.76	+0.40
	DP3 現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力(実践的知力)	1.43	1.84	+0.41
	DP4 上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力(進一層)	1.39	1.75	+0.36
10項目の 具体的能力	①文献・資料読解力	1.62	1.86	+0.24
	②ICT利用・情報活用力	1.36	1.65	+0.29
	③数的思考・データ理解力	1.37	1.80	+0.43
	④レポート作成力	1.64	1.89	+0.25
	⑤意見発表力	1.60	1.77	+0.17
	⑥実践的コミュニケーション力	1.80	1.90	+0.10
	⑦チームワーク力・リーダーシップ	1.39	1.47	+0.08
	⑧時間管理能力	1.95	1.91	-0.04
	⑨異文化理解・共生力	1.59	1.61	+0.02
	⑩社会の一員として良心と規範に従って行動できる社会市民力(責任と信用)	1.97	2.14	+0.17
15項目の平均値		1.57	1.77	+0.20

*年度ごとの15項目の平均値を上回る項目は、赤の網掛け、下回る項目は青の網掛け



2021年度 学部別「学修成果」上位項目			
経済学部	経営学部	コミュニケーション学部	現代法学部
①社会市民力(2.12) ②時間管理能力(1.92) ③実践的コミュニケーション力(1.89) ③レポート作成力(1.89) ③文献・資料読解力(1.89) ⑥数的思考・データ理解力(1.86)	①社会市民力(2.12) ②実践的コミュニケーション力(1.90) ③数的思考・データ理解力(1.88) ③レポート作成力(1.88) ⑤時間管理能力(1.86) ⑤文献・資料読解力(1.86)	①社会市民力(2.08) ②実践的コミュニケーション力(1.98) ③時間管理能力(1.93) ④異文化理解・共生力(1.92) ⑤レポート作成力(1.91) ⑥意見発表力(1.87)	①社会市民力(2.25) ②時間管理能力(1.99) ③文献・資料読解力(1.92) ③DP3問題発見・分析力(1.92) ⑤実践的コミュニケーション力(1.89) ⑥レポート作成力(1.88)

*赤字は、前ページの全体平均と比較した場合の学部の特徴を示す項目

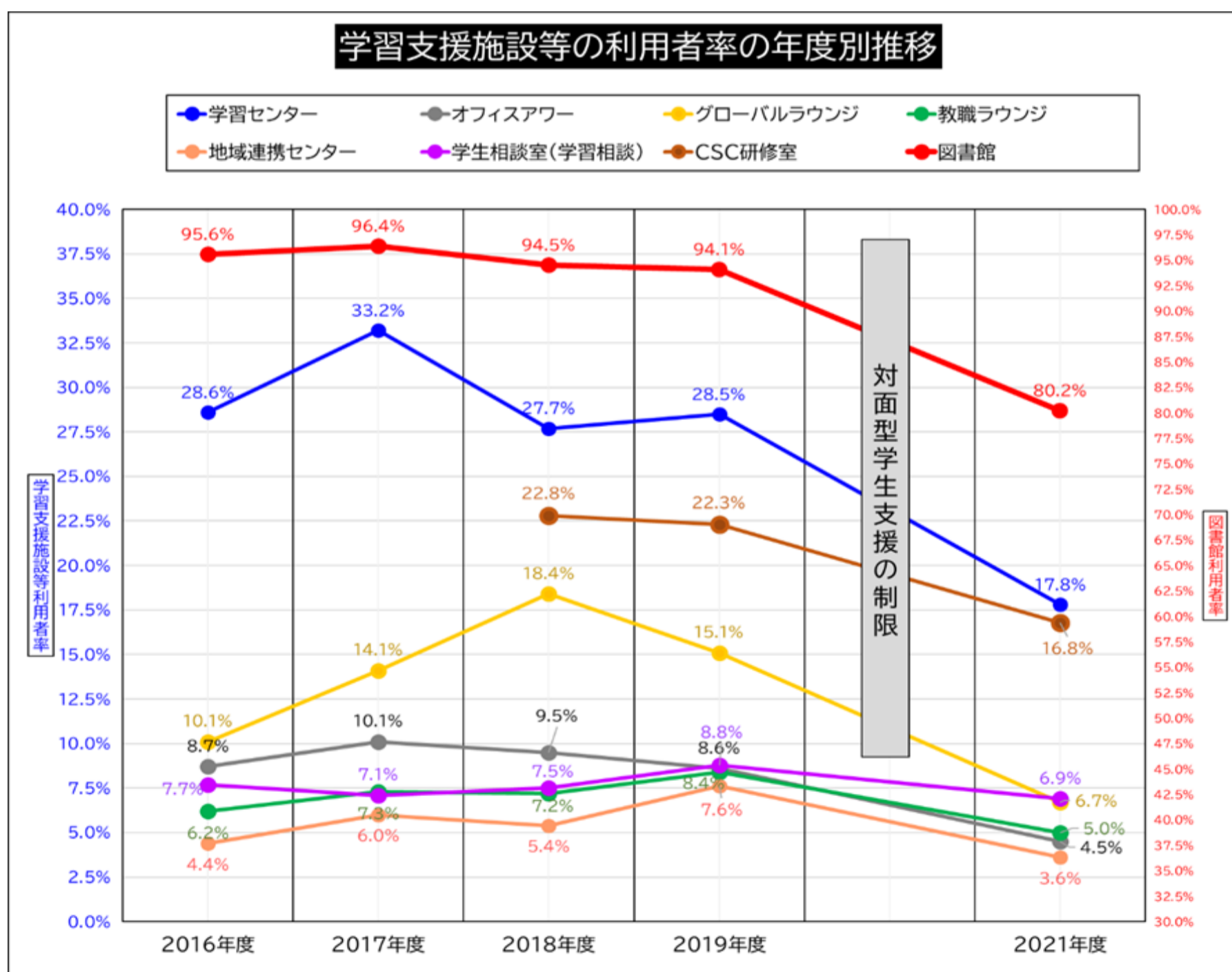
2021年度 学部別「学修成果」下位項目			
経済学部	経営学部	コミュニケーション学部	現代法学部
⑬異文化理解・共生力(1.63) ⑭全学 DP 理解度(1.49) ⑮チームワークカ・リーダーシップ(1.41)	⑬全学 DP 理解度(1.57) ⑭異文化理解・共生力(1.52) ⑮チームワークカ・リーダーシップ(1.49)	⑬数的思考・データ理解力(1.54) ⑭チームワークカ・リーダーシップ(1.52) ⑮全学 DP 理解度(1.41)	⑬ICT・情報活用(1.64) ⑭異文化理解・共生力(1.61) ⑮チームワークカ・リーダーシップ(1.54)

7)授業以外での「各学習施設」等の利用状況

本学の中規模大学としての特性を生かした学習支援・学生支援である「各学習支援施設における面倒見の良さ＝対面サービス」が「コロナ禍」で困難になりました。実際に利用率も下がっています。現在は、リモートサービスへの移行で支援の継続を努力していますが、さらに学生の皆さんからの具体的な要望を寄せていただき、「新たなスタイルの個別学生支援」を発見するチャンスでもあります。

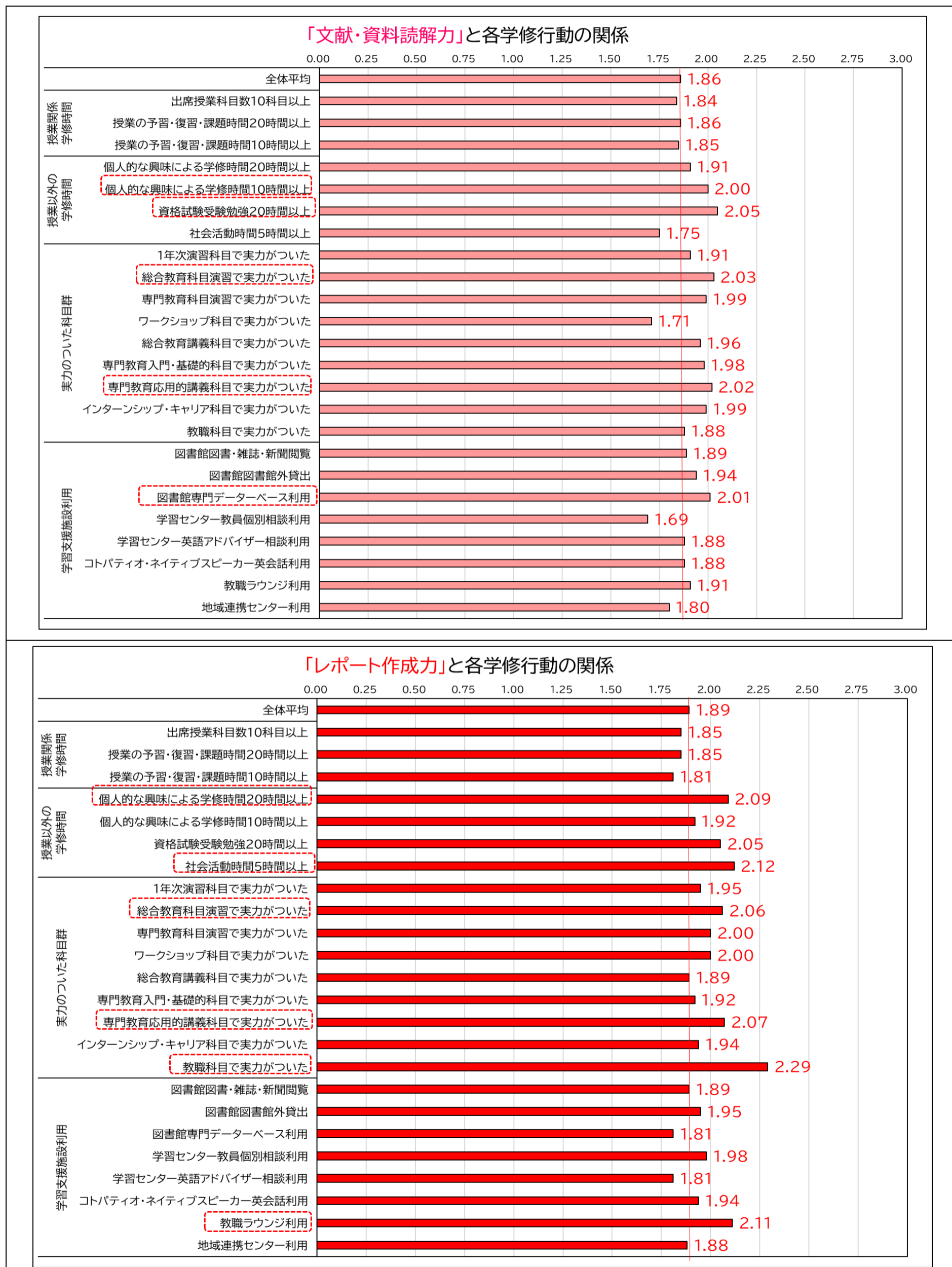
「遠隔授業について困ったこと」のトップは、「友人や教員との直接コミュニケーション不足」でした。ある2年生からは「今まで一人の友達もできていない」という悲痛な声が寄せられました。図書館・学習センター・グローバルラウンジ・地域連携センター・教職ラウンジ・学生相談室等は、みなさんの学習支援を目的に活動していますが、それぞれに相談にのってくれる教職員やアドバイザーが常駐しています。オンラインでの相談やイベント参加でもいいのでぜひ積極的にアクセスしてみてください。

このような状況下でも、学習支援施設をうまく利用している学生が学修成果を高めています。

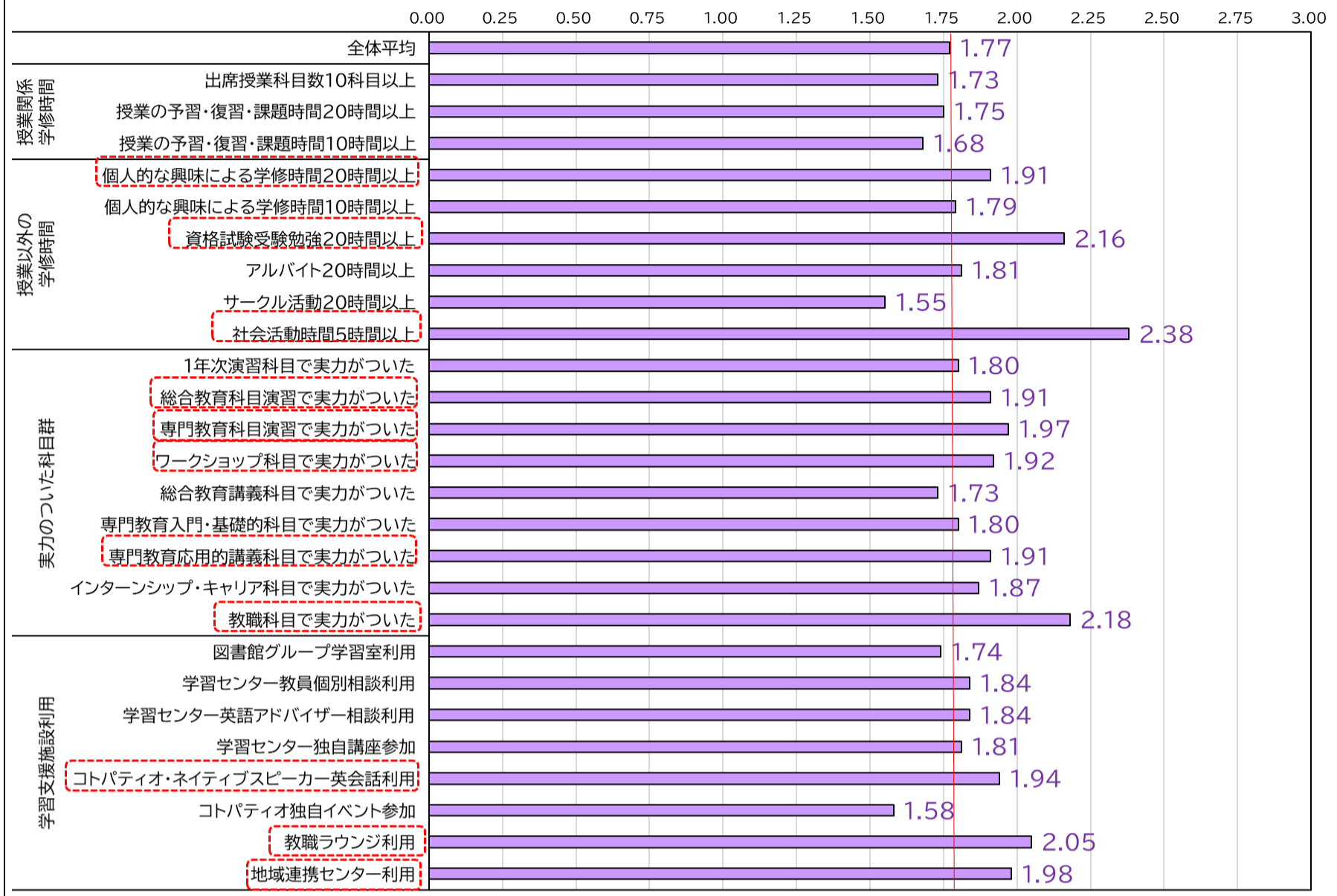


8)「学修時間・学修行動等」と15項目の「修得能力到達度」との関係について

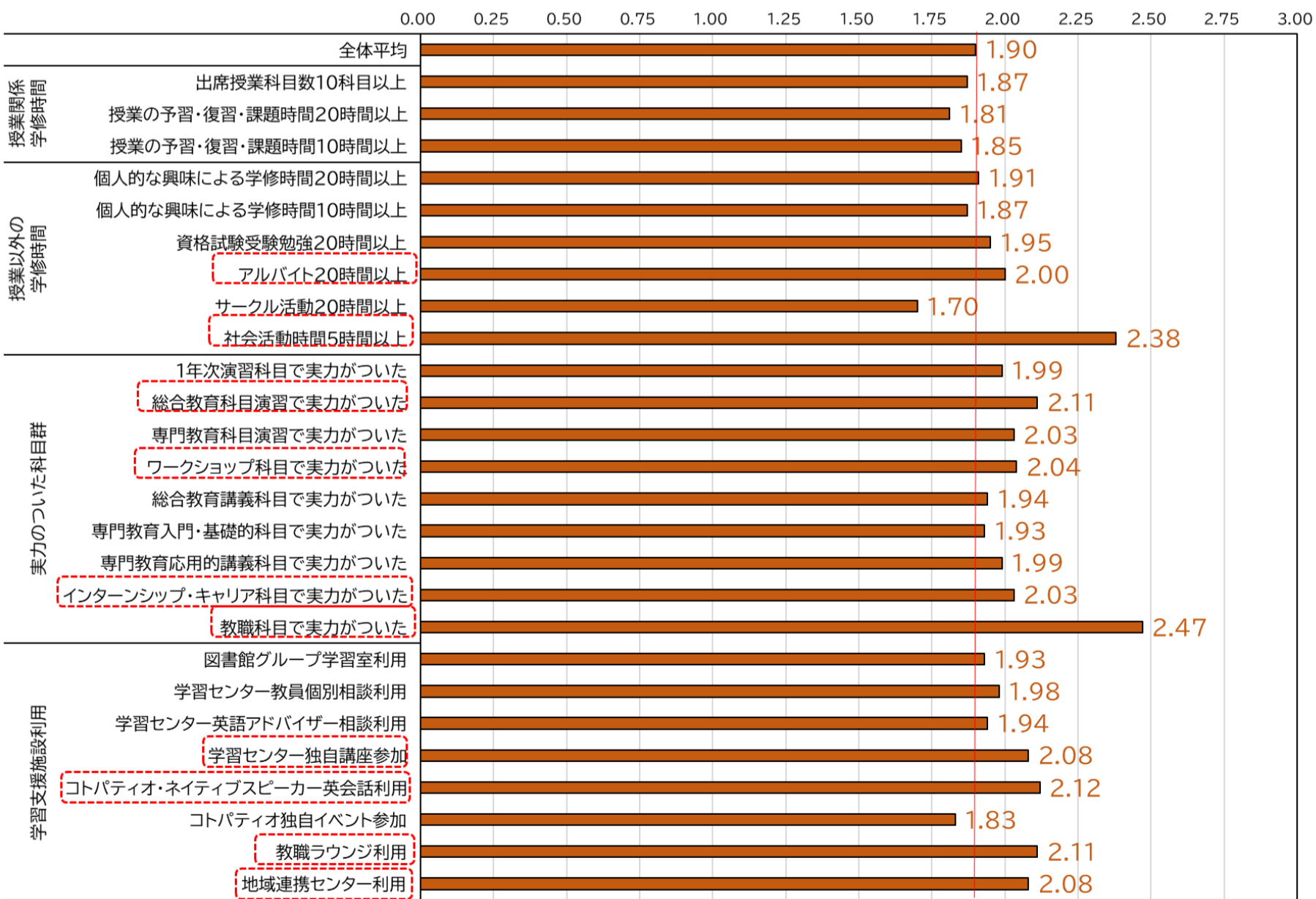
最後に、学生のみなさんの「積極的な学修行動」に注目し、「それぞれの能力の修得度」に結びついているかどうかを考えてみます。15項目のうち、授業の受講に直接かかわる6項目にしぼります。特に関係があると思われる学修行動「赤枠」で囲ってみました。



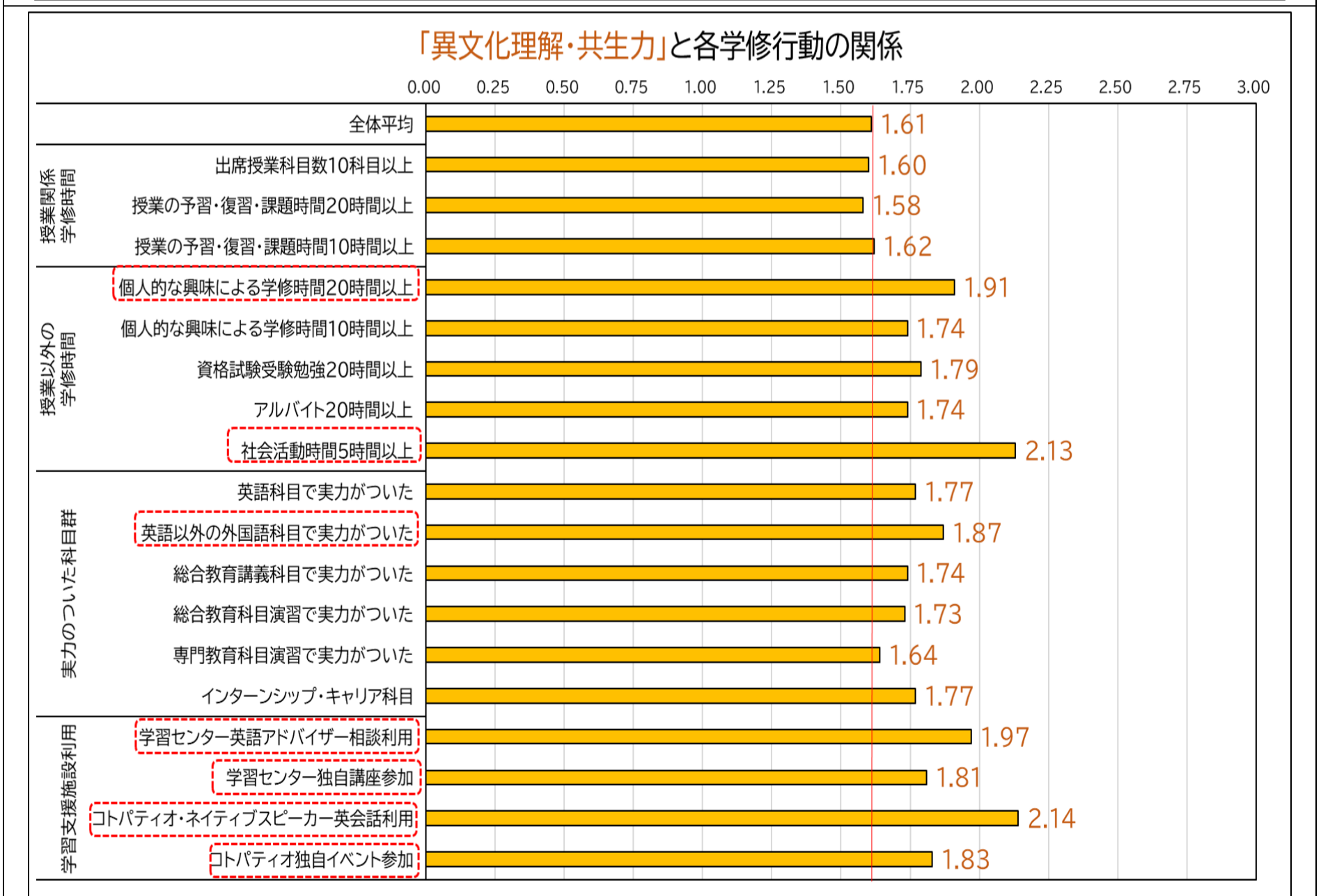
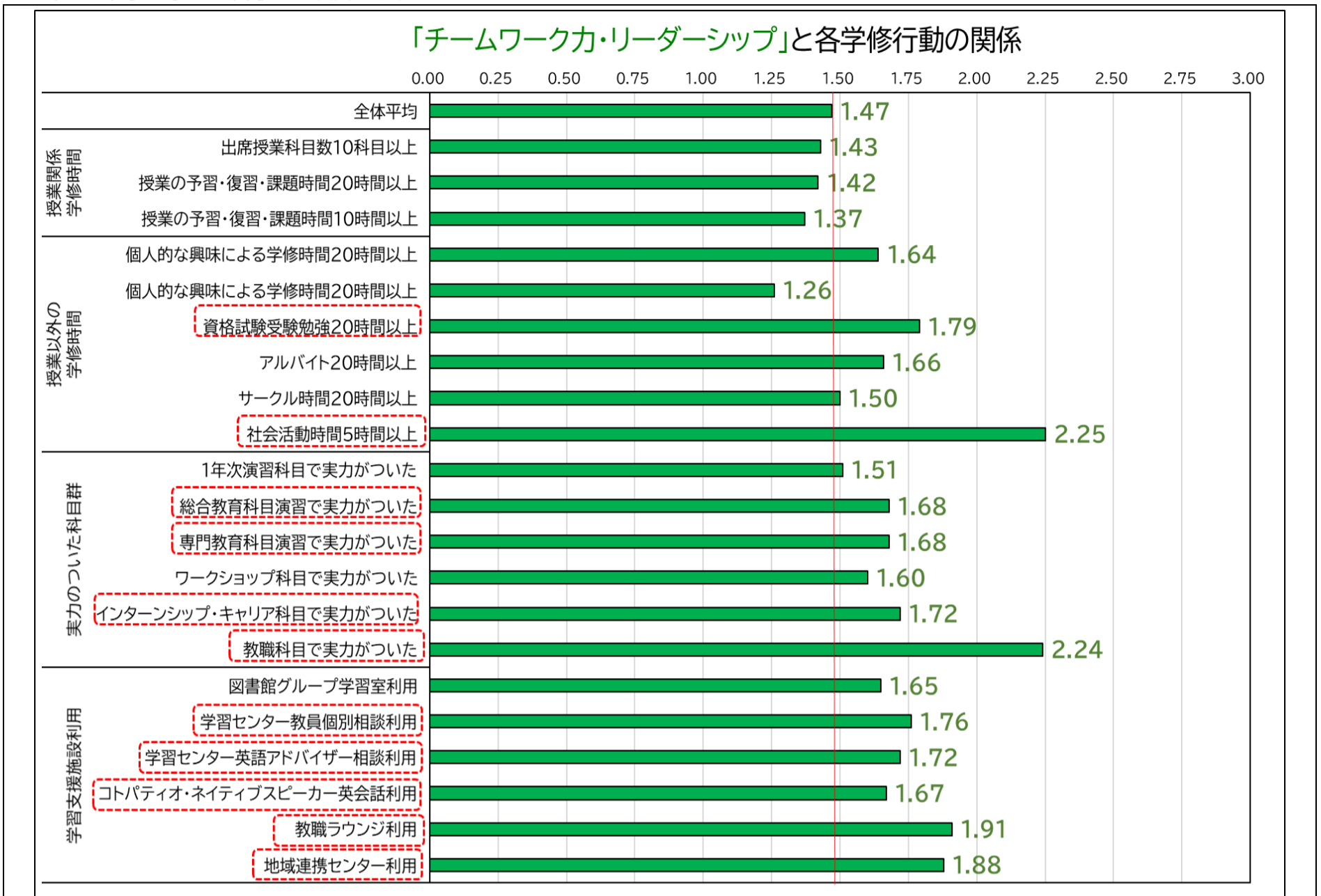
「意見発表力」と各学修行動の関係



「実践的コミュニケーション力」と各学修行動の関係



以下は、本学の学生が苦手な2項目です。



3、調査結果のまとめ

調査の結果、学修成果をさらに高め、社会に出ても役立つ汎用的能力を身につけるためには、以下の学修行動が重要だと思われます。特に、コロナ禍の多くの制約の中で、できることから工夫して挑戦していきましょう。

①正課授業の学修を深める。

- (1)1年次ゼミをスタートにさらに続けて、専門・総合教育の様々なゼミやワークショップ等少人数授業に積極的に参加する。
- (2)講義科目から派生して、自分の興味に従い、小さなテーマから始め、専門知識や教養をどんどん増やしていく。
- (3)授業の担当教員と積極的にコミュニケーションして、これぞという先生を発見する。

②正課授業の学修をはみ出す。

- (1)授業に関係しない個人的興味による学修時間も大幅に増やす。
- (2)資格取得のように目標が明確な学修に取り組む(アドバンスト・プログラムや教職課程)。
- (3)様々な制約がある中でも、課外活動やアルバイトに取り組む。

③地域や世界に飛び出し、多様な他者と交わる。

- (1)地域連携センターやグローバルラウンジを基地にして社会的な活動に挑む。
- (2)コロナ禍で友達ができない時・自信が無い時は、まずは学習センターや学生相談室等の教職員・相談員と顔なじみになり、そこから徐々に友人の輪を広げて行く。

④自己評価力を高める。自信をつけるためのエビデンスを楽しく集めていく。

例えば、図書館の本を50冊読んでみるという目標を立てて、記録を作っていく。

以上